

令和元年度摂津市立味舌小学校第7回学校協議会 要点録

令和2年2月10日(月)19:00~20:

於:味舌小学校校南棟1階学習室

記録:平野 憲昭(事務局:本校教頭)

出席委員:榎谷佳純、以登田毅、門野さとみ、中居正一、前田文雄、河合隆之

欠席委員:角田幸代、小澤香織、吉田栄子、高森佳代子 (敬称略)

学校出席者:校長 前馬晋策、教頭 平野憲昭、教諭 大南圭司(児童生徒支援加配)

1. 校長より挨拶

今年度最後の学校協議会となった。全7回の学校協議会でいただいたご意見をもとに、学校への提言をまとめていただき、それを反映して来年度の学校経営計画を作成したい。

年度末を迎え、様々な事務作業があるが、大変ではあるが、振り返り、次年度の構想を考えることには、楽しさを感じる。

2. 報告・協議事項

(1) 学校の近況について(前回以降)

1月21日	English day
1月23日	朝会(校長の話:地球温暖化について)
1月24日	市教委初任者訪問
1月24, 28, 31日	味舌ギネス(児童会主催の取組み)
1月30日	令和2年度新入生説明会
2月2日	摂津市PTA大会
2月4日	大阪府教委表彰(体力づくり優良校)
2月6日	研究発表会
1月29日, 2月7日	令和3年度修学旅行取扱業者選定会

(校長) English dayは摂津市内小中学校に配置されているALT(英語指導助手)が小学校に集まり、一日児童が「英語のシャワー」を浴びながら、英語でのコミュニケーションを楽しむという取組みである。昼休みには「SETTSU TARO」というALTが制作した映画(紙芝居)が上映され、英語だけで物語が進んでいたが、児童は笑いながら、非常に楽しんでいた。定着してきたこの取組みを通して、児童の英語への興味・関心がさらに高まることを期待する。

学校評価アンケートにおいて、私の話に対する児童の肯定的評価の数値が前年度より下がったのでリベンジを図りたいと、朝会では、はちみつ話題を取り上げて話をした。最近、ミツバチの数が減り、はちみつの価格が上がっている。これは、地球温暖化の問題が関わっている。身近なことから環境を守る活動を意識して生活して欲しいと願っている。児童はとても興味深く、聴いていた。

学校評価アンケートでは、児童会活動があまり活発でないという評価だったが、児童会では様々な取組みを行っている。「味舌ギネス」とは、一中の取組みを参考にしたもので、児童会役員

が少し体を動かす楽しいゲームを考え、参加児童が新記録をめざそうというもの。昼休みに実施したが、多くの児童が参加した。教員も参加し、楽しい時間となった。

入学説明会では、後半少し保護者同士が話す声が気になった。これは学校側が一方的にたくさん情報を伝えようとしていることにも課題があるが、「聴く」ということが難しくなっているのは子どもだけではないということの表れではないかと危惧している。

摂津市 PTA 大会での講演講師を務められた小椋先生は、摂津市内小学校で校長を歴任。苦労された経験も踏まえながら、失敗を恐れず、失敗から学んでよりよい教育活動を創ることが学校の仕事では必要であると教えていただいた。

先日、本校が大阪府教育委員会より体力づくり優良校に選ばれ、表彰を受けた。体育の授業づくりの研修や「足が速くなるダンス」の取組みを実施したことなどが評価された。表彰されたとはいえ、体育の授業づくりには課題も多く、次年度へ向けて改善を図りたい。

研究発表会には、約 110 名と多くの方にご参加いただいた。本校の取組みに対して、概ね肯定的な評価をいただいたが、課題も指摘いただいた。「1 年は少し型にはめ過ぎではないか。」「3 年は決められた計画通りに進められているが、児童が先生に頼り過ぎではないか。」「6 年は個別の指導がもっと必要ではないか。」など。また、支援学級の公開授業はこれまであまり行われておらず、50 名を超える参観者が一つの教室に入り、関心の高さが伺えた。いただいたご意見をもとに次年度へ向けさらに努力したい。

令和 3 年度の修学旅行取扱業者を選定するため、業者によるプレゼンテーションを行った。3 社が参加し、学校側の仕様書に基づき、提案を受けた。近日中に取扱業者を決定する。本市教育委員会では業者選定マニュアルを作成しており、それに基づき選定作業を進めている。

(2) 学校運営への提言のまとめ

(校長) 第 6 回で学校評価アンケートの結果及びそれに基づく分析・自己評価に対してご意見をいただき、それをもとに学校運営への提言案を事務局でまとめさせていただいた。また、これまでの学校協議会でいただいたご意見も一部反映させていただいている。

学校経営・運営をするにあたり、学校協議会でいただいたご意見・ご提案を実際に取り入れたこともあった。その一つが平和登校日アンケートである。保護者は平和登校日に対して関心が高いことがわかった。概ね継続してほしいという声が多かったが、教員がもっと熱意を持って取り組んで欲しい、内容をもっと充実させて欲しいなど、厳しくも、より良い取組みになるよう求める意見を多くいただくことができた。

「話せる場がない」と感じている児童がいることへの大きな危機感を持つ必要がある。これは学校だけではなく、味舌小学校校区の大人全体の課題。また、保護者と児童の間での意識の差があることも課題。保護者は楽しんで学校に行っていると思っけていても、児童はそうではない場合も結構あることがアンケート結果からわかった。周りとの良好な関係を築けていない児童がいることの課題を前回の学校協議会で指摘いただいた。特に教職員と児童の信頼関係の構築は本校の大きな課題である。

学校生活では、みんなで「そろえる」ということを強調している場面が多く見受けられるが、そればかりではなく、もっと個に応じた指導をきめ細やかに行っていく必要がある。ユニバーサルデザインを取り入れることは学校現場には必要であるが、「個別」と両輪で教育活動を進めないと辛い思いをする児童が出てくることは前回のこの場でもご指摘いただいた。SDGs をはじめ現代的な課題は様々な立場を知り、理解することが必要であり、学校はていねいに取り組む必要性を

感じている。

学校が発信している内容が、保護者・地域のニーズとかみ合っていないことがあることがわかった。内容やタイミングが合っていない発信も多くあるのかもしれない。また、保護者からは、紙媒体ではなく、SNS を通じて情報を知らせて欲しいという声もある。今後、このような声をどのように生かしていくかも課題であるが、発信が自己満足にならないようにしていきたい。

今後も「熱く」「厚く」「篤く」教育を行っていく。つまり、熱意を持って、信頼関係を創り、思いやりのある教育活動に励んでいきたい。年間を通しての皆様からの要望をまとめるとこのようにまとめられるのではないか。

それでは、提言案について、ご意見をいただきたい。

(委員) 学校協議会では、様々な立場の方が参加しており、多様な視点で学校を見ることができる。そうした意見をうまく取り入れながら、学校運営を行ってこられたことは素晴らしいことである。その姿勢はこれからも持ち続けて欲しい。

(校長) さらに学校協議会の委員を集め、幅広い視野からご意見をいただき、学校経営、運営に当たりたい。学校の良いことばかりを求めるのではなく、課題をしっかりと指摘いただきたいと考えていたが、年間を通してそのような会議となり、有難かった。

(委員) 教職員のアンケート回収率が低いことを、来年度の改善点として挙げておられる点は評価したい。

(校長) 常々本市の教育委員からも、教職員の教育活動に対する意識の向上は必要なことであると指導を受けており、一人ひとりにもっと学校運営についての当事者意識を持たせたい。

(委員) SDGs(持続可能な開発目標)は重要な課題であり、教育の分野でも取り上げるべきものではあるが、全ての人にとっての目標であることに注目する必要がある。多様性に目を向け、世界の様々な課題をいかに解決していくかという視点を忘れてはいけない。

つまり、誰も取り残さない社会をつくることをめざすことに一番大きな意義をもつ。様々な状況に置かれている人がいる社会の中で、厳しい環境で生活している人も、つながることができる居場所を作らなければならない。学校の教育でも、その考え方をもとに児童の居場所を作っていくことが必要になってくる。ただ環境問題を考えるというようなことではない。

(校長) 国連も人権問題を地球規模で考えなければならないと言っている。それについて、学校教育の中で何ができるかを考えるが、誰もが大切にされる環境を作ることをめざす。

(委員) 提言には、学校協議会で年間通して話し合った内容をしっかりとまとめていただいている。課題だった難しい言葉についてもわかりやすくまとまっています。

(校長) 本校の保護者がアンケート等にきちんと考えて答えていただいていることに感謝したい。設問に対して、学校を細やかにしっかりと見ていただいていると実感している。教職員の記述はなかった。普段から話をできているので、特段書くことはないということもあるかもしれないが、やはり教育活動に対して意識を高く持つには、自分の意見を書くことは求められる。

それでは、若干の修正した上で、この提言の(案)を消し、教職員に配付の上、次年度の学校経営、運営に生かしていきたい。

(3) 外国語教育について

(校長) 学校教育で外国語を学ぶが、主には英語を学ぶ。小学校でも新たに次年度から使用する教科書を採択したが、発行されている教科書は英語である。

今年度は新学習指導要領の実施移行措置の期間。本校では、先行実施をしており次年度を見据

え、高学年では年間 70 時間、中学年で年間 35 時間の外国語活動の授業を行っている。文部科学省が発行している教材を使って授業を行い、毎週火曜日には ALT が派遣され、授業の補助を担っている。

新任をはじめ若い教員ほど、英語の授業を当たり前に行っているように感じる。私が教員になった頃、小学校の教員が英語を教えることになるとは思っていなかった。若い教員の中には、海外留学の経験がある人や TOEIC や TOEFL の試験を受けている人もいる。

来年度に備えて、今年度は多田先生という方をお招きして、英語教育の校内研修を行っており、今週も行う予定。迫ってきた危機感からかようやくスイッチが入ったという感じで、研修は活気があるものとなっている。今週の研修では、教職員に対して宿題が出ている。文部科学省教材には日本の文化の紹介や自分の住む町についての紹介などをすることなどが取り上げられているが、新しい教科書も基本は同じようなものが出てくる。そこで、この味舌小学校区や学校の内部を紹介するなど、地域に合った教材にどうカスタマイズするかといったことを考える宿題である。

さて、教科「外国語」が来年度より本格実施される。5, 6 年は教科「外国語」（年間 70 時間）、3, 4 年は「外国語活動」（年間 35 時間）である。中学校ではオールイングリッシュで授業を行うと聞いている。中学校の授業を参観したことがあるが、現在もほぼ英語のみで授業を行っていた。

教科になるということで、小学校に英語の教科書が登場し、児童には無償で給与される。また、内容は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」であり、小学校でも書くことが求められる。評価もしなければならない。

心配は、高学年の児童間に習熟度の差が生じ、英語嫌いを作らないかということ。3, 4 年生の外国語活動でいかに興味付けすることができるかがポイントである。

お子さんは英語の授業についてどのように感想を持っているか伺いたい。

(委員) 高学年の子どもは少し嫌がっている。低学年の子どもは英語教材に幼い頃から親しんでいるので、英語は好きなようだ。

(委員) 以前、6 年生の英語の授業を参観したことがあるが、にぎやかでとても楽しんでいる様子だった。しかし、時間をかけてよく見ると、うつむいている児童がいることに気が付いた。習い事をしている児童は、かなり上手に英語で話ができ、普段の生活の中でも英語で挨拶をするなど自然に英語を使える児童もいる。幼い頃から英語に慣れることはいいことだと思う。しかし、あまり英語に触れていない児童ももちろんいるので、授業の中で英語嫌いをつくらないか心配である。

新聞で、千葉県の取組みが紹介されているのを読んだことがあるが、そこでもやはり教員の授業力向上が一番必要であると言っていた。最近では、タブレットを使用して、音声を聴き取ることができるし、様々な方法で英語を学ぶことができる。

(校長) そのような状況から、英語塾などが増えてくるかもしれない。

(委員) 私立に進学した親戚の子どもが英語を習っていなかったので、英語だけで行われている授業がわからないと言っていた。やはり英語がわからないと、つまずいてしまうことになる。

(委員) 調理実習等の参加型の授業の中で、英語を使って行うなどの工夫もできるのではないかと。ただ、英語を学ぶだけでなく、他の活動を利用して英語を習得していくと、興味が湧くのではないかと。

(校長) たしかに歌やゲームなどはマンネリ化し、それだけでは飽きてしまう。

(委員) 以前、飲食店で出会った外国人の男性に、トランプゲームのババ抜きを教えないといけないということがあった。英語は得意ではなかったが、この人に説明しないといけないという状況になると何とかできるものである。人とつながろうとする場面設定がないとただ語学を覚えるだけになってしまう。ALT とつながるという機会を上手に設定してもいいかもしれない。

また、JICA や大学の留学センターの方の協力で、小グループに一人入っていただき、英語での
みコミュニケーションをとるなどの活動も面白いと思う。

(委員) 英語が増えた分、他の教科の時間が減ったのか。

(校長) 水曜日の 6 時間目を入れることで時間数を確保した。

今では 2 年生も 6 時間目まである日がある。「補充の時間」などの設定ができなくなっ
てしまい、授業時数の確保が難しいこともある。年間計画をきちんと立てることがこれまで以上に求め
られる。

(4) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

(校長) 同じ児童の経年比較ではないので、過去と比較することの意味がどれほどあるのかは分から
ないが、本校 5 年生男子は、最近 4 年間の全国比では一番いい結果であった。一方、5 年生女子は
昨年度全国平均並みにあったが、今年度大幅に低下した。体格調査によると、男子は身長、体重
ともに全国平均を上回っているが、女子は、身長は全国平均を下回っており、体格の差が影響し
ているかもしれない。

男子と、女子ともに平均値が高いのは、握力と 20m シャトルラン。50m 走は女子においては、
全国平均を大きく下回っている。体育の授業改善が急務であるととらえている。足が速くなるダ
ンスの取り組みで大幅に伸びが見られたことも、取り組みをすれば伸びるということであり、学校で
の継続的な取り組みが必要。

また、スポーツをする、しないの二極化が進んでいる。スポーツクラブなどに入り、休日でも
ずっと運動している児童と、運動せずに家で過ごす児童のどちらかになっている。気軽に続けて
運動する習慣づくりを家庭や地域でも進める必要があるのではないかと。

委員の皆様は普段体を動かすことがあるか。

(委員) 体を動かすことはあるが、運動はあまりしない。なるべく歩くようには心がけている。

(校長) 体育の呼び名がスポーツに変わってきており、官公庁でも例えば「文化スポーツ課」などのよ
うに、スポーツという名称が用いられることが多くなってきている。スポーツは「すること」以
外にも「見ること」、「支えること」、「知ること」も含められ、長く楽しむものだととらえている。

(委員) キックベースの指導をしていたことがあり、体をよく動かしていた。

スポーツを広めるにはまずは誘うことが必要。自分の友達がやっているということがきっかけ
になって、広がり、流行ってくる。スポーツをしている子どもが熱意を持って周りの子どもを誘
わないとなかなかやってみようとは思わない。

(大南) 仕事を含め、一日に約 15,000 歩程度歩いている。また、家に帰れば我が子と遊び、「高い！高
い！」などして腕の筋肉トレーニングをしている。

(教頭) 休日は小学生対象にバスケットボールの指導をしているので、一緒に体を動かしている。

(校長) たまには 30,000 歩ぐらい歩くこともあるが、足が痛くなる。運動不足を痛感している。運動
は、長く続けることが大切。以前はバスケットボールのレフリーをしていたが、引退すると痛め
ていた部分が痛み出すこともよくある。

(委員) マラソンをやっていて、大会に向けて練習している。

(委員) 意識して歩くことはあるが、日によって波がある。

(委員) 暖かい時期は運動しようと思うが、寒くなるとなかなかできない。

(校長) 調査結果をさらに分析し、本校での体力づくりをさらに進めたい。そのためにも、体育の授業
改善を積極的に進めたい。

(5) 令和2年度学校経営計画について

(校長) 来年度の学校経営計画の中で、「教科研究への意欲」、「新学習指導要領への対応」、「通知表の改善」、「人材育成」などを中心に取組みを進める。学習評価については、わかりにくいという声もあるが、観点別評価を進めるに当たって、このままではもっとわかりにくくなる。学びに向かう態度や人間性の部分を評価することになるが、非常に難しい。発信も含めての取組みが求められる。

また、人権教育の弱さを改善したい。学級集団づくりもその一つであるが、集団を構成する一人ひとりをどう大切にするかが問われてくる。人権教育というのは、人間形成のベースともなるが、どうしたらその質を高められるのか悩む。

(委員) なぜ人権教育を学ぶのかということを探って、興味を持って取り組めるといいと思う。

(校長) 様々な課題に対応するため、人権教育にも様々な内容が盛り込まれるが、一つひとつが形骸化してしまっていることも課題の一つ。

(委員) 実際に人に会わないといけないと思う。視力障害の有る方に学校に来ていただいて、話をしていただく。視力障害が有っても、スポーツができる。障害そのものは気の毒なことではなく、障害の有る人が懸命に、たくましく生きていることを学んでいく。特別なことではなく、クラスで落ち込んでいる子どもがいたら、声をかけて、支えになってあげることから人権教育は始まっている。

(校長) 多くの人権課題のある中で、「寝た子を起こすな」という考え方ではなく、しっかり理解した上で、問題を解決しないといけない。

人材育成は、今後さらに力を入れていく。研究発表会で公開授業を行った教諭の平均年齢が28.5才と非常に若い。授業力はこれから向上させる必要はあるが、積極的に授業をしたいという意欲があることはうれしく思っている。

保護者、地域との連携もさらに充実させたい。また、この学校協議会は、地域をはじめ様々なつながりから学校教育を考えるものであり、今後も大切にしたいと考えるので、引き続きご協力をいただきたい。

(大南) まず、人権教育については、私も改善する必要があると感じている。心ない態度や言動でトラブルになることもあった。やはりどの児童にも学校に居場所があり、心地よいつながりを築いていたい。

また、私も経験年数を重ねてきたので人材育成に力を注ぎたい。ぜひ今後も学校協議会に出席させていただいて、同僚に皆様の声を伝えていき、さらに学校組織を強化させたい。

3. 閉会にあたって

(校長) 最後に閉会にあたって、皆様より一言ずついただきたい。

(委員) 学校のことを勉強したように思う。民生児童委員として関わっていたので、少しはわかっていたつもりだったが、回数を重ねるごとにより深くわかってきて、関わられてよかったと思った。

(委員) 私と校長とは不思議な関係で、校長が教育委員会におられた頃に一緒に仕事をしたことがある。提言については、校長は味舌小学校の課題などを十分把握し、私達の意見を反映した上で、きちんとまとめられている。系統立てて、組織的に学校を運営しているのはさすが。ほとんどの学校は年2回ほどの開催だが、味舌小学校は年7回も開催した。学校協議会を大切に考えてくれている。

(委員) 学校の中身を十分に教えていただいた。学校から子ども食堂にも来ていただいて、地域とのつながりを大切にしていることが伝わった。

(委員) 昨年度から出席させてもらっているが、学校のことを勉強することができた。是非子どもたちにスポーツに親しんで欲しい。そのためには、大人もスポーツに興味を持って、子どもたちにその楽しさを伝えて欲しい。

(委員) 地域の皆さんとつながろうとする姿勢が結構なことだと思う。感心する次第だ。学校協議会に出席することが苦痛でなく、新しいことを知れて、皆さんのご意見を聞けることが楽しかった。地域の方とつながるといふ楽しさを感じる。

(委員) 人は一人で生きているわけではない。学校現場は、発達段階に応じて自立させようとする。自立を促すことも必要だが、それが児童を挫にはめてしまっているのではないかと感じることもある。わからないことを教えて欲しいと言える関係を学級でどう作るかが大切。特別なことではないが、世の中の人みんなが普通にこのように思えるようにしていきたい。

保護司としても活動しているが、悪い人間関係の中にしか居場所がないと感じている子どももいる。「落ちこぼれた」子どもたちは、悪い環境で役割を与えられて、抜けられないようになる。社会がそのような子どもに対して、より良い居場所をつくらなければならない。つながりは画一的ではなく、自治会や趣味などで多様なネットワークを広げればよい。一つのつながりでしかいけないとすると排他的になる。学校現場でも、学校と地域、子どもと地域、など様々なチャンネルを持つことが大切である。

学校のあり方も変わってくる中で、そのベースは、人を慮る、そして人に頼ることができる関係を作ることにあるのではないか。そんな学校づくりをこれからもめざして欲しい。

(校長) 皆様には、今後ともよろしくお願ひしたい。一中校区でともに子どもを見守りたい。学校の教職員は異動するが、学校はそこにあり続ける。だからこそ、子どものことを真ん中において、学校は自己満足にならずに、学校と地域がこれまでどうやってきたのかを知り、これからどうするのかを考えなければならない。

そして、希望や期待も含めてこれからのことを発信し、いろいろな立場の方の意見を聞きながら、持続可能な発展をする味舌小学校をつくっていきたい。

学校協議会の皆様には一年間お世話になり心から感謝する。